

冷凍・生鮮・低温物流ネットワークを支えるEDIシステムをクラウドに移行し、運用負荷軽減を図る

株式会社ニチレイ

株式会社日立フーズ&ロジスティクスシステムズ

ニチレイグループの情報システムを担う日立フーズ&ロジスティクスシステムズは、INS ネット（デジタル通信モード）サービス終了をにらみ、ニチレイのEDIシステムをインテックのクラウド型EDIアウトソーシング「EINS/EDI-Hub Nex」に切り替えました。

冷凍・生鮮食品と低温物流で日本人の食生活を支える

ニチレイは冷凍食品業界のトップクラスであると同時に、食品の低温物流事業でも国内トップを誇ります。また、畜産品・水産品を世界中から調達し、食品分野で培った技術を活かすバイオサイエンス事業にも取り組むなど食のフロンティアカンパニーとして日本の食生活と健康を支えています。

日立フーズ&ロジスティクスシステムズ（以下、日立F&L）はそんなニチレ

イのIT全般にわたる企画、開発・運用を主な業務としています。同社はニチレイのIT部門を強化する目的で2003年に日立製作所とニチレイの合弁会社として設立されました。「IT人材の育成、最新技術への追随には日立の力を借りる必要がありました」とニチレイ情報戦略部長の小松唯史氏は設立の背景を語ります。

食品の入在庫・配送指示をリアルタイムで行うEDIシステム

2019年1月、日立F&Lではそれまで

自社で運用していたニチレイのEDI（電子データ交換）システムをインテックのクラウド型EDIアウトソーシング「EINS/EDI-Hub Nex」（以下EDI-Hub Nex）によるアウトソーシングへと全面的に切り替えました。

ニチレイのEDIシステムはグループ全体で相手先約290社とデータの送受信をしており、いわばニチレイの物流業務の生命線にあたります。なかでも低温物流関連のデータが多く、冷蔵倉庫への入在庫や配送指示など、低温物流を支えるデータを取り扱っています。



株式会社ニチレイ 情報戦略部長 小松唯史氏（中央）、株式会社日立フーズ&ロジスティクスシステムズ ソリューション第二事業部 統括部長 藤浪陽一郎氏（右）、同社 ソリューション第二事業部 インフラグループ 技師 青木健斗氏（左）

CLIENT PROFILE

社名：株式会社ニチレイ

設立：1942年12月

住所：東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル

従業員数：15,824名（2020年3月31日現在）

社名：株式会社日立フーズ&ロジスティクスシステムズ

設立：2003年1月

住所：東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル

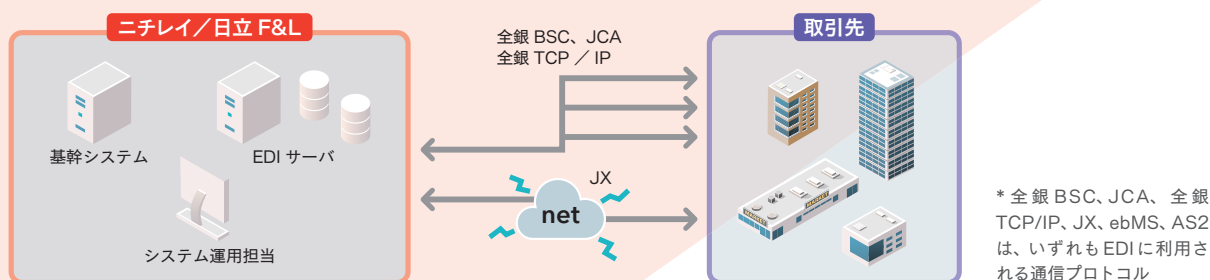
従業員数：144名（2020年11月30日現在）

Process

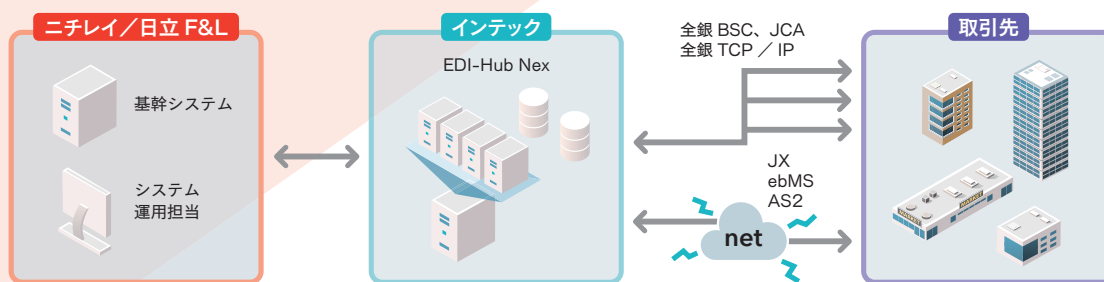


システム概要

導入前



導入後



以前のEDIシステムは、オンプレミス型で24時間365日稼働の無停止サーバを使用し、災害対策として遠隔地へデータのバックアップも行っていました。「EDIは動いて当たり前ですが、通信機器などのハードウェア障害やソフトウェア側のトラブル、さらにユーザー側から直前の変更リクエストもあり、運用には大きな負担がかかっていました」と、日立F&L ソリューション第二事業部統括部長 藤浪陽一郎氏は言います。

ISN サービス終了を前に 全面的にアウトソーシングへ

2024年1月に予定されているINS ネット（デジタル通信モード）サービスの終了も懸案でした。EDIの接続先企業のうち3割がINS回線を使っており、今後切り替えのたびに調整や接続試験が必要です。しかし、ニチレイの顧客でもある接続先に切り替えを急がせるわけにもいきません。

オンプレミスでの運用に限界を感じていた日立F&Lの中では「次期EDIシステムはアウトソーシングで」という声は早くから上がっていたといいます。

アウトソーシング先にインテックを選んだのは、加工食品業界のEDIに豊

富な経験と実績があることが大きな理由でした。

「インテックは加工食品業界向けVANサービスであるファイネットの主要ベンダーです。ニチレイも冷凍食品事業で草創期からファイネットに関わってきましたので、インテックなら流通業界のEDI標準仕様『流通BMS』や食品流通のEDIの実務に精通しているという安心感がありました」（ニチレイ小松氏）

また、アウトソーシングをしたことで、今後のバージョンアップを気にしなくてよい点や、運用費がこれまでより大幅に削減できた点も導入のポイントとなりました。

切り替えは旧EDIシステムのハードウェア機器のリース終了のタイミングに合わせ、約10カ月をかけて段階的に行われました。「インテックのサポートのおかげで移行中大きなトラブルもなく、オンプレミスのシステム間での移行よりも短期間で済みました」（日立F&Lソリューション第二事業部インフラグループ 青木健斗氏）

障害・コスト共に大幅削減 事業継続計画にも効果大

今回のアウトソーシングによって障害が減り、日立F&LではEDI業務にか

かる時間が半分以下になりました。「顧客からの直前の変更要求などにもインテックが柔軟に対応してくれるので助かります」（青木氏）

EDIの運用負担が減った結果、企画や開発などより上流工程の業務をこなす余裕が生まれたといいます。さらに、懸案だったINSネットからの切り替え対応をインテックに一任することで、ニチレイ側も顧客からの回線切り替え要求にいつでも応じられるようになりました。

新EDIシステムは二拠点運用も可能となり、BCP（事業継続計画）の面でも効果を発揮しています。

「災害対策としてニチレイでは基幹システムを西日本、運用部門を東京と東西に分散しています。その考え方をEDIにも適用して、新システムではインテック本社のある富山にメインサイトを置きました。システムの冗長化やDR（災害によって被害を受けたシステムの復旧を行う仕組みや体制）のことまで考えるとEDIをインテックに任せて正解でした」（ニチレイ小松氏）

日立F&Lとニチレイは今後もITシステムのアウトソーシングを進めたいと考えており、パートナーとしてのインテックに大きな期待を寄せています。